

分苑たより

なごみ

大本
名古屋分苑

分苑長

長月 月次祭挨拶

サルートン

皆様こんにちは

長月の月次祭に足元が悪い中、ご参拝頂きありがとうございます。

祭典の祝詞で長寿祝詞が奏上されました、白寿で一名、米寿で十二名、喜寿で九名の方達のお名前が読み上げられましたなかで、「もうそんなお年だったの」とビックリされる方もいらしやいました。

聖師様の愛善健康法八ページから十一ページに秘訣を示されています。

一、老人であるという観念を去ること

一、年齢を忘れてしまつて、思わぬこと

ここで一番重要なことですが、青年男女と交際することと書かれています。

今後とも長年培われたご神徳を持って後進の私共にご助言ご指導を宜しくお願い申し上げます。

昨日までは、夏日続きで日中はエアコンがないと体調不良を起こす原因になることもあり、また熱中症の原因にもなっています。

今夜から台風の接近で天候が心配されます。

東海地方には、十九日夜から進路に当たっていますので、最小限の被害を無難にして頂くように大神様にご祈願いたしますしよう。

今月、二十四日と二十五日の祭式講習会と葬祭研修会に東海教区の方々を含めて二十名を超える参加者がお見えですが、二か所で夫々講習を行いますので参加者をお待ちしています。

参加は一日だけでも結構です、分苑で食事をして頂く

めに準備上参加人員が必要で、す名前を記入して頂けたらありがとうございます。

令和五年度の人型・型代等を仕分けしてあります。

尚型代等不足している支部・分所には二十四日には準備できませんのでお持ち帰りしていただけます。

今年の初めに万祥殿と長生殿の豊献金をお願いしていますが、今のところ支部で一件、個人で三件の申し込みがあり本部へ私が直接参しました。集まっていたら私が直接本部財務課へ持参いたしますので宜しくお願いいたします。

十月の秋季大祭を二十三日に変更いたしました。更生奉仕金は前日の二十二日、大掃除も同じ日に行いますので宜しく願います。皆様におかれましては健康に気を付けて、熱中症・コロナ感染にならないようにお過ごしください。

行事報告

● 月始祭

九月三日(土)

参拝者	二十三名
斎主	見田 すみ子
祭員	堀 禮子
祭員	堀 亜沙美
進行	加祥 めぐみ
少年祭員として、	堀 亜沙美

さんがご奉仕された。

● 月次祭・長寿祈願祭

九月十八日(日)

参拝者	三十八名
斎主	飯田 和彦
祭員	妹尾 正治
祭員	小林 清人
祭員	畠山 茂
祭員	飯田 直美
伶人	岡田 幸子
伶人	長谷川 美枝
裏方	菱川 義英
進行	中村 幸夫



祭典後、長寿の皆様には直心会より記念品が授与された。おめでとございます。

- 白寿 半田支部 鈴木いち
- 米寿 城北分所 大橋信子
- 神ノ倉分所 岸貴代美
- 神ノ倉分所 木塚厚子
- 神ノ倉分所 仲嶋悟
- 神ノ倉分所 仲嶋妙子
- 神ノ倉分所 木村多宏
- 神ノ倉分所 藤沢良
- 名古屋北分所 中根勝夫
- 若葉支部 佐久間碧
- 牛山支部 増田宮子
- 牛山支部 山本芙美子
- 北一支部 五十川貴美栄
- 喜寿 城北分所 山田善市
- 神ノ倉分所 平野順子
- 名古屋北分所 古田美江
- 若葉支部 太田照子
- 名古屋東支部 井藤良則
- 弥富支部 小鹿正光
- 弥富支部 中西昌克
- 分苑直属 三石正子
- 分苑直属 岩田スエ子

● 祭式講習会・葬祭研修会

九月二十四・二十五日に本部より出口拓生先生を講師にお迎えして開催された。参加者は述べ二十三名で岐阜主会から七名（少年一名）・三河本苑から一名の参加があった。祭式講習と葬祭研修のグループに分かれて受講し、特に葬祭研修では招魂式から発葬式までを一日で実施するケースなどを実習し、大変有意義な研修となった。



行事予定

- 十月十八日（火） 霊界物語一斉拝読会
- 十月二十三日（日） 秋季大祭・秋季合同慰霊祭 午前十時より
- 十月二十九・三十日（土・日） 誠心会献勞奉仕（綾部）
- 十一月五日（土） 月始祭 午後一時半より



言葉の力 その⑥

特任宣伝使 妹尾 正治

毎年、年末になると話題になるのが「今年の漢字」です、東日本大震災の年は「絆」でした、多くの人が被災され尊い命が奪われ、日本全国、世界各地から暖かい支援と祈りが届きました。

辞書には「絆」「きずな」人と人との断つことの出来ないつながり・離れがたい結びつきと記されています。

よく似た意味合いで「結」【ゆい】農作業などで互いに労力を交換して助け合うこと、と云う言葉があります。

合掌作りで有名な白川郷には古くから、この「結」が有りました、かやぶき屋根の葺き替えには遠く離れて生活している人も応援に駆け付けると聞いています。

又年に一度のお祭りには若者が馳せ参じます、ふる里で生まれ育った「血」と「魂」がそうさせるのかもしれない。

最近、日本の地域に根付いた伝統文化も近代文化の波に

押し流され、クリスマスだのハロウィンで若者が群がり、お巡りさんが出勤する事態にもなっています。

名古屋の「どまつり」高知の「よさこい祭」も将来は伝統的な祭りになるかも知れませんが、昭和生まれのおじさん（私）には理解不能です。

日本人の奥底に眠っている「絆」「結」の魂を掘り起こさない限り、私たちは日本人ですと、胸を張って言える時代は来ないように思います。

「絆」は暖かく優しい言葉ですが、意外ともろいものです、私は「結」こそ現代病への特效薬だと思っています。

お知らせ

- 令和五年度祭典カレンダー・手帳の販売について
- カレンダー 三百五十円
- オリジナル手帳 七百五十円
- オリジナル手帳二点セット 五百五十円
- 締め切り十一月五日（土）
- 分苑一階、掲示板の申込用紙に記入してください